



# 白隠の法

柳 幹康

最終回となる今回はこれまでのまとめとして、白隠が自身の体験に基づき構築した実践体系について見てまいります。よろしければ、第七回の図をあわせてご覧ください。

白隠の実践体系の核となるのが、「見性」<sup>けんしやう</sup>と「悟後の修行」<sup>しゆきやう</sup>の二つでした。「見性」とは、己が本性（仏の心）を見てとり開悟すること、「悟後の修行」はその開悟の後の実践です。「悟後の修行」は上求菩提<sup>じやうとく</sup>と下化衆生<sup>げしやうじやう</sup>の両面から成ります。

白隠によれば凡そ仏祖・賢聖のなかで見性しなかつた者は一人もいません。インドから中国に禅を伝えた達磨も「悟りを完成させるためには、まずは見性せよ」と説いたと、その著作において繰り返し述べています。釈尊<sup>しやくそん</sup>が説いた八万四千の法門、ありとあらゆる実践もみな、この見性に至る道なのでした（『遠羅天釜 続集』）。

念仏や読経など各種実践のなかで、最も優

れるのが公案（禪の課題）の参究だといひます。なぜならそれにより、見性に不可欠な疑團（深い疑い）を容易に起こすことができるからです。白隠もまた「無字」の公案に参究することで最初の大悟を得たのであり、人々を指導する際にも「無字」を用いました。また後には、より効果的な公案「隻手音声」を考案し、一層多くの人々を見性に導くようになります。

見性の後は悟後の修行に進まなければなりません。見性はいわば初心の悟りであり、それだけでは奥深き仏法を極められないからです。そこで更に多くの公案に参じ、自己の境界を不断に練り上げていきます。これが上求菩提——上に菩提を求む——であり、その背景には師の正受から厳しく指導された自身の経験があります。正受が白隠の最初の悟りを認めず、更に公案に参究させたからこそ、白隠は二度目の大悟を得ることができたので

した。

迷いの元凶は自己への執着であり、それを断つには自他の分別を越えて他者を遍く救済することが肝要です。そこで仏教の八万四千の法門はもとより、凡そ思想の一切を広く学び、人々の機根（能力）に応じて適切な法を施します。これが下化衆生——下に衆生を教化する——です。白隠によればこの法施（法の施し）の重要性は、春日神が明かしてくれたものであり、それにより白隠は三度目にして最後の大悟徹底を得たのでした。

以上の一連の実践について白隠は、次のように唄っています。

……悟後の大事は即ち菩提。昔し春日の大神君の、解脱上人に御告げがござる、「凡そ（はるか昔の）俱盧孫仏より以来、たとい天下の智者高僧も、菩提心なきや皆々魔道」。菩提心とはどうした事ぞ。

……上求菩提と下化衆生なり。……人を  
 助すけくにや法施ほつせが主おもじや、……法施するに  
 は見性が肝要。……これら（上求菩提の  
 各種公案を）逐一透過とうかの後に、（下化衆  
 生の為に）広く内典・外典（仏教内外の  
 典籍）を探り、無量の法財ほふざい集めておいて、  
 三つの機根（上根・中根・下根）を救わ  
 ねばならぬ。……

（『お婆おば々ばどの粉こ引き歌うた』）

まずは「無字」や「隻手音声」など特定の  
 公案（禅の課題）に参じて見性し、そのうえ  
 で更に各種公案に参じて自身の悟境を練り上  
 げ（上求菩提）、かつ仏教内外から広く法財  
 を集め、人々の機根に応じて適切に与える  
 （下化衆生）——かかる「見性」と「悟後の  
 修行」の実践こそが、白隠の言う「インドと  
 中国の歴代禅宗祖師が心から心へと直接相承  
 してきた一大事義」であり、「最初の発心か

ら最後の悟りの完成に到るまで、わずかたり  
 とも懈怠けんたいすることなき正修（正しい実践）」  
 なのでした（『八重やえ蓮むすづ』巻二）。

このように白隠は自身の経験を踏まえて実  
 践の一大体系を構築しました。そしてその指  
 導により「見性」した人々は白隠同様「悟後  
 の修行」に進んで弟子を指導し、更にその下  
 で「見性」した人々も同様に「悟後の修行」  
 へと進み、次の世代、更にその次の世代へと  
 受け継がれていく……かくして白隠の法は  
 脈々と受け継がれ、今日もなお臨濟りんざい・黄檗おうはく両  
 宗において活いき続けているのです。

柳幹康（やなぎ みきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課  
 程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所副所長・  
 准教授。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究——一心による  
 中国仏教の再編』（法蔵館）。

## お願い

### 花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

\*メ切りは毎月1日です。

### 『花園』へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64  
妙心寺派宗務本所内編集室  
俳壇／歌壇／花園 係

\*住所、氏名を必ずお書きください。

\*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

\*なお投稿はお返しいたしません。

お知らせ

今月号をもって「犬も歩けば…」、「銀幕の女たち」、「白隠の言葉を読む」、「建築秘境探検」は終了いたします。ご愛読いただき、ありがとうございました。4月号からは、新連載が始まります。どうぞ、ご期待ください。

**花園**  
hanazono

「いつもココロに花園を」  
あなたとわたしのポケットエッセイ集

- 【花園】第70巻 第3号(通巻第823号)  
令和2年3月1日発行(毎月1日発行)  
定価55円
- 【発行人】栗原正雄  
【編集人】畠中寿浩  
【印刷人】喜田真司  
【発行所】〒616-8035 京都市右京区花園  
妙心寺派宗務本所 教化センター  
振替 / 01060-9-1400番  
電話 / 075-463-3121番

表紙の絵「自分をつくるのは  
自分しかいない」



自分を成長させる事ができるのは自分  
だけ。新しい事にドンドン挑戦して  
いこう。 絵・花咲幸絵

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,560円(税・送料込)です。  
下記のお電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

\*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。